

「食の安心・安全」

原則 I 作物栽培管理システムの必要性

“栽培日誌(栽培履歴)って”

種まき～栽培、収穫などの工程で行った作業履歴を記録し消費者要求に応じ提出出来る様にまとめた物。

“栽培日誌管理の必要性はなに”

消費者は産地偽装などを防止する事や見た目で安心・安全を判断できない
こうした事を信頼確保のために記録が求められているのです。
これらは当然のごとく庭先で栽培出荷している生産者も同じ事が求められます。

“栽培日誌の一般的な内容は”

誰が	→	生産者は	何時	→	作業した日
何処で	→	どこの畑で、何処の田んぼで	何を	→	作物の品名は
どうやって	→	どんな資材を使って・大きくする為にどんな肥料を・虫よけにどんな農薬をどれ位、			
		何回、いつ頃..			

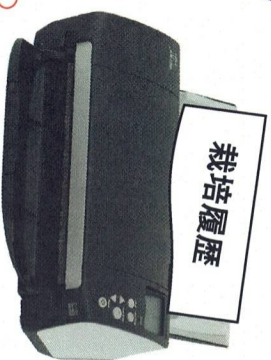
が記帳されている事。

「食の安心・安全」 きちんとチェックは何所で



① 栽培日誌持込
出荷者記載
原本

出荷者様作業



栽培日誌
読取情報

② 読込操作

- ・栽培日誌をスキャナーにセット
- ・画面の読み込みボタンを押す



「食の安心・安全」一緒に考え

カタチにします

生産者・品目
直売所出荷先
生産者M

“作物栽培安全管理MizCropシステム” の利点・特徴は

作物栽培安全管理システムは

生産者様記載・提出の使用農薬や施肥情報をデータ化、農薬使用基準・施肥状況確認・判定を

農林水産省 登録農薬情報を独自の手法で分析・DB化を実現 従来のシステム開発からの

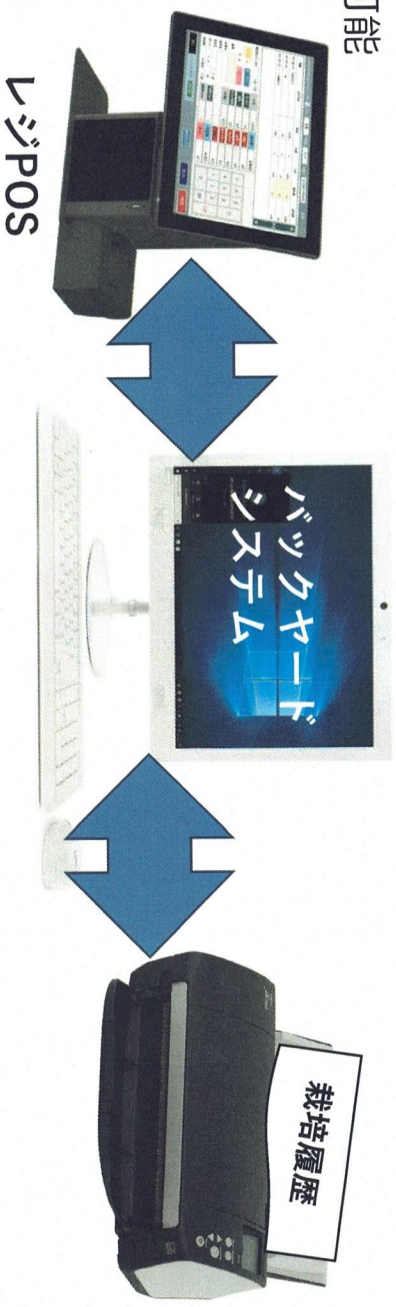
脱却で最新技術でお客様ご要望を実現いたしました。

店舗レジPOSバックヤードシステムと連携

MizCrop

- このメーカーとでもデータ連携可能

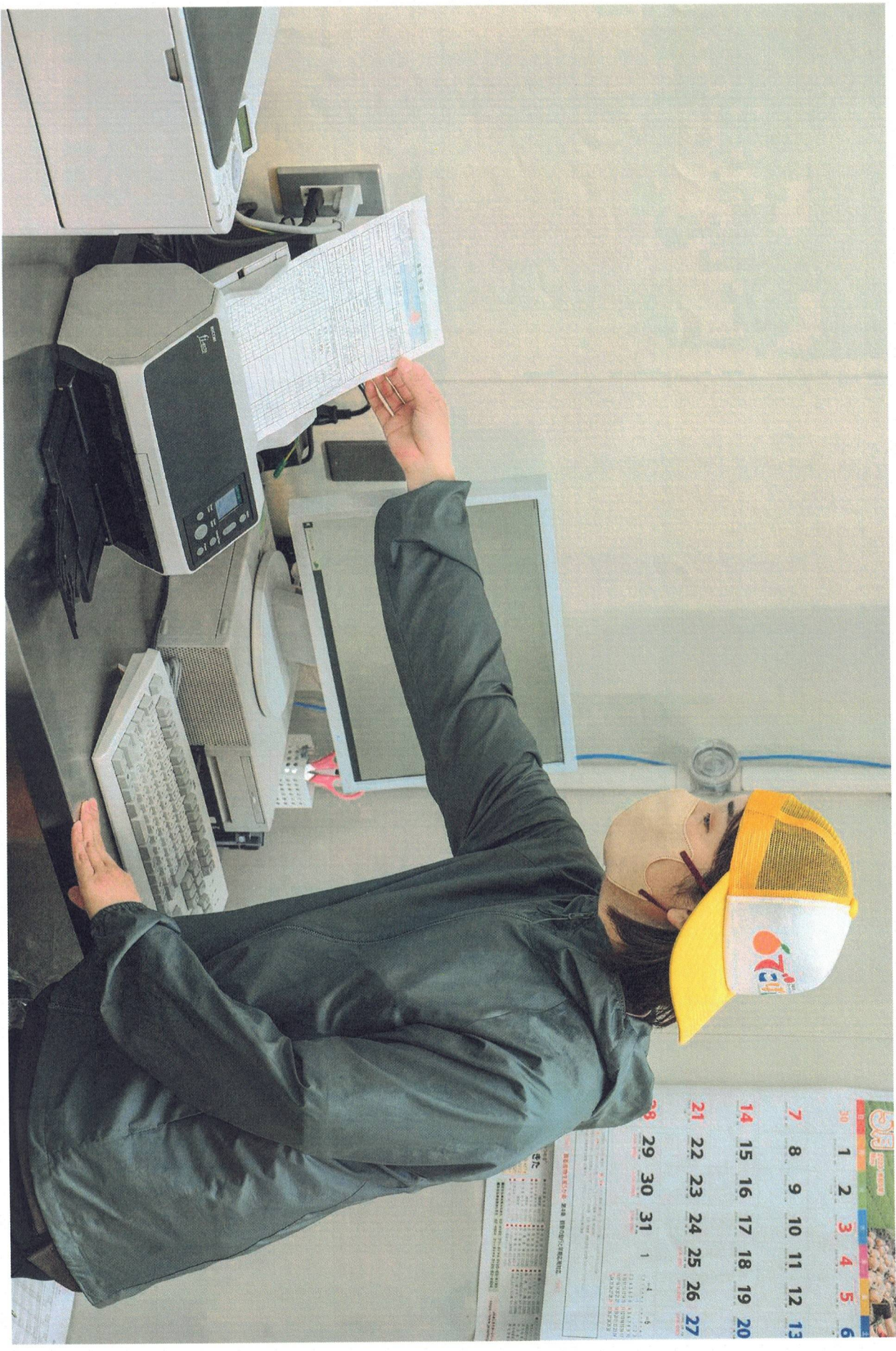
テラオカ殿POS
TEC殿POS
NEC殿POS
NCR殿POS
クリエート殿POS



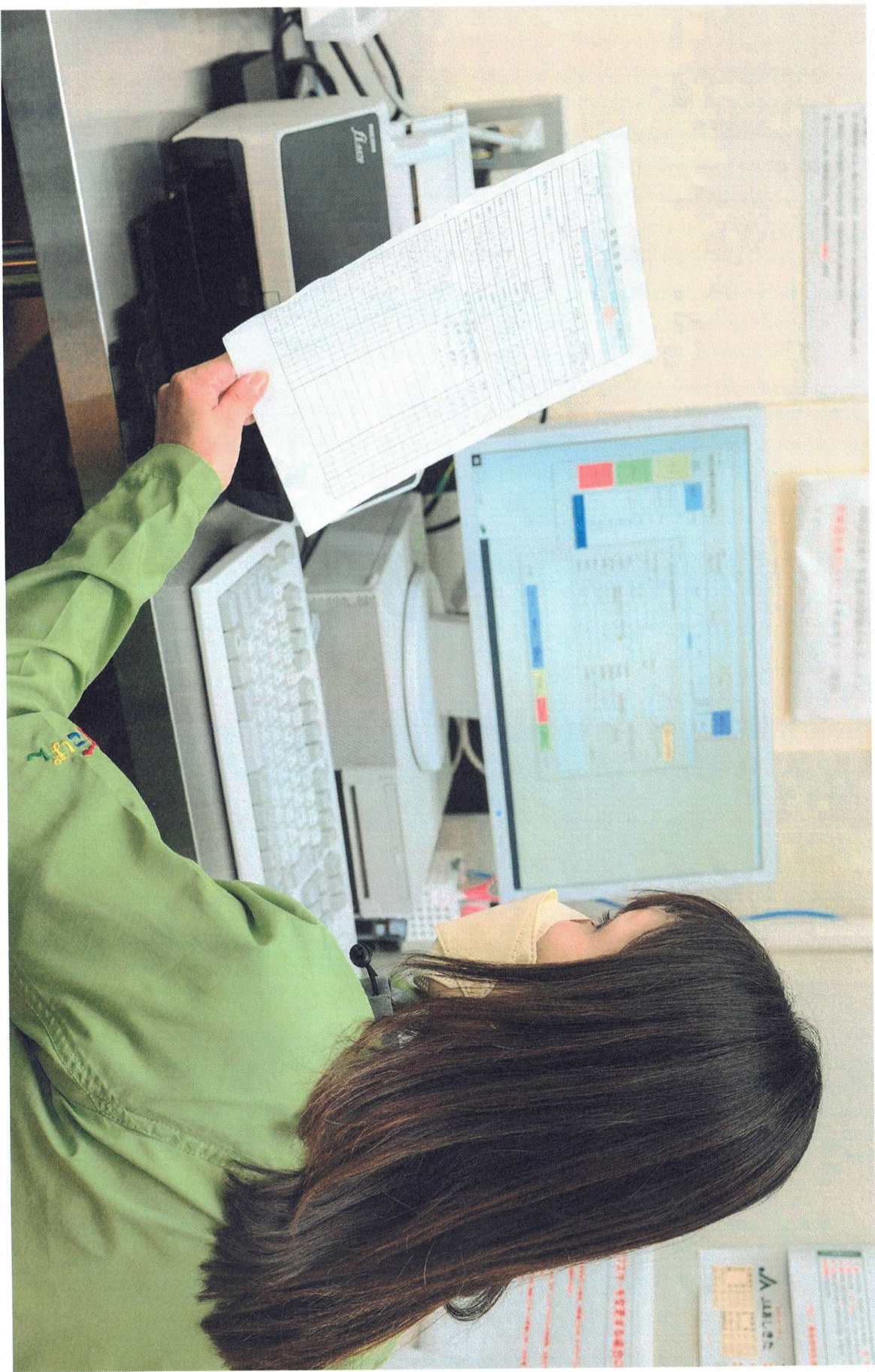
システムご採用お客様の声

- 導入事例① 道の駅 芦北でこぼん（熊本県JA芦北様）
- 導入事例② 道の駅 原鶴 フォームステーション バサロ様
- 1. 詳細な判定が可能な農薬チェックシステムをデータベースから開発
- 2. 誰でも扱え、低コスト・高効率。望んでいた通りのシステムが出来上がった
- 3. ランニングコストが4分の1になり、農薬チェックに要する時間も大きく削減された

生産者が自身で 読み込み操作



事務職員さんによる
チェック済み履歴の確認作業「A様」



事務職員さんになる チェック済み履歴の確認作業道の駅様

